

平成14年度病害虫発生特殊報第1号

岡山県病害虫防除所
平成14年5月16日**病害虫名:**ミカンナガタムシ *Agilus auriventris* E. Saunders**作物名:**ミカン**特殊報の内容:**岡山県で初発生を確認**初発生確認月日:**平成14年4月15日**初発生場所:**笠岡市西大島**発生面積:**50a**発生状況:**

笠岡市西大島のミカンで幹を穿孔する害虫の被害が発生しているとの連絡があり、被害がみられる幹のサンプルから成虫を羽化させたところ、ミカンナガタムシの可能性が高いと判断された。そこで、これらの成虫を神戸植物防疫所へ送付し、本虫の同定を依頼した。一方、4月15日には笠岡市西大島の現地圃場を調査し、栽培管理が不十分な圃場において樹勢が低下した木に被害が多発している状況が確認されたことから本虫がミカンナガタムシである可能性が高いと判断された。その後、5月15日に神戸植物防疫所から同定の結果が報告され、本虫が「ミカンナガタムシ」であることが確認された。

形態:

卵は乳白色でのちに橙黄色になり、長さ約1mmの扁平な楕円形である。老熟幼虫は、体長15～20mm、前胸は扁平で胴部は乳白色で各節でくびれる円筒形である。蛹は体長約10mm、乳白色でのちに黒化し紡錘形である。成虫は体長6～10mmで黒銅色の甲虫である。

発生生態及び被害:

本虫は1914年に福岡県で発生したという報告があり、これが本虫の最初の記録となっている。次いで1927年に長崎県のミカン園で発生を確認したとの報告があり、その後1940年代までは異常発生の記録がないが、1958年から1963年にかけて、九州地方や近畿地方のミカン園で被害が続発し、成木が枯死して甚大な損害となった。本虫はカンキツを寄主範囲とし、年1回の発生で、幼虫態で越冬する。4月頃から蛹化し、5、6月から羽化が始まり、10月頃まで続く。羽化の際には幹を穿孔し脱出する。卵は枝の裂け目などに産み付けられ、ふ化幼虫は最初は形成層を、後に木部を食害する。成虫は葉を食害する。本虫は通常老木、孤立した雑柑類、放任園などに生息するが、寒害、日焼け、干ばつ、台風などによってミカン産地全体に樹勢が衰弱するような条件で局地的に多発することがある。

防除対策及び防除上の参考事項:

現在のところ本虫に対する登録薬剤はないので、放任園の被害樹を伐採焼却する、白色塗剤を使用して日焼け防止を行い樹勢を維持するなどの耕種的防除を実施する。

